

●コラム

技術者に聞いてもらいたい本田宗一郎氏のことば

The words of Mr. Soichiro Honda for engineers



野口 勝三

Katsumi NOGUCHI

(株)本田技術研究所

HONDA R&D Co.,Ltd.

このコラムを読んでいる方で、本田宗一郎と言う名を耳にしたことが無い方は、居ないだろう。世界中で多くの方に知られている、名ではないだろうか？本田さんは、1906年静岡県で生まれ、1946年本田技術研究所を設立、原動機付自転車バタバタを創った。1964年ドイツGPでF1初参戦し、翌年メキシコGPで優勝。1971年CVCCエンジン概要を発表し、翌年にマスキー法を世界で初めてクリアした。世界各国から評価され、多数の受章し1989年日本人初のアメリカ自動車殿堂入りを果たした。優れた技術者であり経営者として、現在に多くの功績を残している。本コラムでは、その中から技術者に役立つと思われる、ことばをいくつか紹介する。

■理論とアイデアと時間の尊重

理論に基づく各人のアイデア、即ち創意工夫を尊重するところに進歩発展がある。人間の価値は物事を理論的に考え、合理的に処理する知恵と能力に比例する。ただし、どのように優れた工夫や発明でも、必要な時に提供せられなければ何の価値もない。息を引き取ってから到着したのでは、如何なる名医も藪医者に劣る。アイデアと時間は絶対的なもので、切り離すことはできないものだ。そして創意発明は、苦勞し考え抜いた末の、せつぱつまった苦しまぎれの知恵であると述べている。本田さんは寝る時、筆記用具を枕元に置いて、夜中に思いついたアイデアを起きて書きとめていた。

■気づくことが先決条件

技術があれば何でも解決できるわけではない。技術以前に気づくということが必要になる。技術者は沢山いるが、なかなか解決できない事がある。気付かないからだ。正しい知恵を出すには？見学と観学ということばを挙げている。目で見ただけの見学ではだめ、見学でなく観察する見方、つまり観学でなければならない。本当の見方というものは、観察することによってのみ、正しい知恵が出てくる。今も、現場・現物・現実の三現主義が継承されている。現場に行き、現物をよく観て、現実を知れば、アイデアや解決策のヒントが見つかるのである。

■やってみもせんで

技術というのは不思議なもので、すんなりと理論どおりのものができる場合と、ちょっとしたプロセスの違いで予期せぬ結果が出る場合とがある。長年やっていると、「何か、あるな」予感がひらめいて、さらにそれを実証したくなるものだ。「ああやってもだめなら、こうやってみる」ということになる。それがまた、新しい貴重な体験となって蓄積されてゆくのである。「それは、ムリでしょう」とか、「おそらくダメでしょう」といった言葉は、「やってみもせんで、何をいっとるか」という一喝で消し飛んでしまう。一見無理なものが、ああやってもだめならこうやってみるという粘りの前に可能性を持ち始めてくるのである。また成功とは99%の失敗に支えられた1%である。(失敗を恐れるな)とも言っている。失敗はしてもよい。だが、二度と同じ原因で失敗しないように、反省をしなければならない。それが貴重な経験となり知恵となり成功に達するのだ。

今の時代も変わらない、物事の本質を言い得ていることばが、数多く残されている。本田さんは気さくで、人柄から湧き出る雰囲気、周囲の人を魅了した。その魅力は、なぜか？本田さんは、考え方や有るべき姿などの、素晴らしい理念が最初に有って、独自の技術でそれを実行し、結果を出して実証した。それゆえ信頼され、言っていることばに説得力が出る。いつも大きな夢を持ち困難に挑戦し、周りの人に夢を与えることばをかける。そして逆境に陥った時にでも、明るく笑い飛ばすことを忘れない。だから、周囲の人を惹きつけたのでは、無いだろうか。この様な技術者に成りたいものである。

<参考文献>

TOP TALKS 本田技研工業